

# JGAP 認証取得



## 『JAあきた白神ねぎ部会GAP研究会』

「JAあきた白神ねぎ部会GAP研究会」は日本版農業生産工程管理(JGAP)の団体認証を見事取得しました。これは当組合生産部会内でも初の快挙となります。

3月24日に本店大会議室で認証取得についての報告会が開催されました。

認証取得は、轟ネオファーム、能代グリーンファーム常盤の2法人と、由利衛さん(54)、菊池正さん(46)、松橋悟さん(44)、齊藤洋さん(38)、工藤力さん(38)が経営する合わせて7経営体の農場です。

また、能代営農センター野菜集出荷所も農産物取扱施設として認証されました。

「JAあきた白神ねぎ部会GAP研究会」は、ねぎ部会が『日本版農業生産工程管理(JGAP)』の取得に意欲のある部会員を募り、2019年4月に立ち上げました。

当組合でも営農指導員11名がJGAP指導員の資格を取得し、GAPに関する知識を習得、2019年4月より7経営体と協議を進めながら、食の安

全面や労働環境面の危険リスクなどを相互に確認し、意識を高めながらマニュアルや各種記録様式などを整えたことが評価され取得につながりました。

取得した工藤さんは「認証に至るまで、肥料・農薬等の在庫管理簿の整理や、作業安全などを考慮した作業舎内の整頓など、審査項目が多岐にわたる、農作業の傍らこれらを整えるのに苦労しただけに知らせを受けたときは感慨深いものがあった。認証されてからが勝負なので持続して管理を徹底していきたい。」と話してくれました。

佐藤営農部長は「県山地域振興局農業振興普及課やJA全農あきたのご協力、何よりも生産者のご尽力によりJGAP認証を取得することが出来た。このノウハウを活かした農場管理は、消費者の信頼に応える農産物生産となり、白神ねぎの更なるブランド化にも繋がる。そして、JGAP認証された安心・安全な「白神ねぎ」を世界の東京五輪選手団に「口でも食してもらいたい。」と今後の抱負を語ってくれました。

### JGAPとは？

Japan Good Agriculture  
Practitionerの略。

「工程管理に基づく品質保証」の考え方を農業現場に導入し、食品事故などの問題を農場が未然に防ぐ農業生産工程管理の手法1990年代にヨーロッパで普及し、NPQ法人日本GAP協会が2007年11月から日本版の認証制度を採り入れました。

JGAP認証までの主要5つのCheck項目

Check ① 「農場内の責任分担の明確化」  
農薬散布の管理、施肥の管理、商品の品質管理 etc. これらの仕事の責任者が誰なのか、明確にするところからスタート。

Check ② 「生産環境の確認と安全性の確認」  
水や土や周辺圃場などの生産環境が安全であるかの確認と、従業員由来による農産物の病原性大腸菌汚染やガラスなどの異物混入がないか、作業と施設の安全性の確認を行う。

Check ③ 「農場管理の作業手順(ルール)の作成」  
手順を整理または新たに作り、農場内の仕事の標準化を図る。

Check ④ 「作業手順(ルール)の周知徹底と従業員教育」  
ルールを周知徹底を図り、または教育・訓練を通して、従業員が正確に作業遂行できるようにする。

Check ⑤ 「記録と検証と自己点検」  
ルールに基づき仕事を遂行しているか確認し、農場の状態を自己審査。問題が発見されれば、農場自ら改善を行う。

